



プレスリリース

2017年7月5日

歴史的ミッション：アスベスト被害者の連帯

2017年7月、20人からなる日本代表団は、アスベスト曝露による致命的な疾病によって愛する者を失うという共通の体験をもつ仲間たちと手を携えるために、イギリスのアスベスト被害の心臓部まで旅をするという、ひとつの歴史をつくりあげようとしている。職場や住まいで致命的なアスベストによってその生活を損なわれたイギリスの人たちに連帯の気持ちを伝えたいとミッションには、兵庫県の平田忠男さん、埼玉県の松島恵一さん、山梨県の渡辺雅雄さん、愛知県の宇田川かほるさん、富山県の野村美雪さん、大阪府の阿部光代さんほか13名に、山口県から肺がん患者である久保啓二さんも加わっている。

このミッションの重要性を強調して、日本の中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会顧問の古谷杉郎さんは、次のように語った。

「アスベストを広範囲に管理せずに使用した結果、イギリスと日本の人々は、あまりにも多くの疾病、という大きな災厄に苦しみ、あまりにも多くの早すぎる死、あまりにも多くの環境汚染に苦しめられている。日本代表団のメンバーは、イギリスの被害者・家族と連帯し、また、自国と世界でアスベスト被害者・家族に正義を実現するためにお互いの経験を交流したいと望んでいる。」

代表団は、イギリス、オーストラリア、スペイン、ベルギー、フランスの被害者団体の代表が参加する、7月5日のマンチェスターでの交流会、7月7日のマンチェスター、バーミンガム、シェフィールド、リバプール、ダービーでのアクション・メゾテリオオーマ・デーのイベントなどに参加する予定である。

それらの取り組みについて、イギリス・アスベスト被害者支援グループ・フォーラムのグラハム・ドリングは次のように言う。

「フォーラムのメンバーはみな、日本の同志たちの訪問を歓迎する。彼らが、異なる5つの町での取り組みに参加してくれることを喜んでいるし、彼らの存在が世界中のアスベスト被害者を結びつける絆を強化すると信じている。何十年にもわたり、世界のアスベスト利害関係者が労働者や一般の人々を食べ物にしてきたが、いまや、影響を受けたすべての人々が共同して反撃するときがきた。こんなに多

くの日本の被害者・家族が参加してくれたことは、アスベスト被害者・家族に正義を実現するための国際キャンペーンのターニングポイントとなるだろう。」

編集者への注

1. 20 世紀中にイギリスと日本は、各々700 万トンと 1,000 万トンのアスベストを輸入した。日本とイギリスではともにアスベスト関連疾患によって毎年 5 千名の命が失われていると推定されており、両国は、アスベスト関連疾患の流行の真っただ中にある¹。1999 年にイギリスはすべての種類のアスベストを禁止し、日本政府は 2004 年にアスベストの段階的禁止を発表して、2012 年にすべてのアスベストの新たな使用最終的に禁止された。
2. この歴史的なミッションの責任者に連絡するためのEメールは、グラハム・ドリング：asbestos.mcr@gmail.com、または、古谷杉郎：2009aban@gmail.com
3. 本プレスリリースを発表した団体の詳しい情報は以下のウェブサイトを参照されたい。
 - イギリス・アスベスト被害者支援グループ・フォーラム
<http://www.asbestosforum.org.uk>
 - 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会
<http://www.chuuhishu-family.net/w/>
 - アスベスト禁止国際書記局
<http://ibasecretariat.org>

¹ For background information on fightback against the UK's deadly asbestos legacy, see the website of the British Asbestos Newsletter: <http://www.britishasbestosnewsletter.org/>